

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

「クラブと地区の
変革をめざそう」

高田ロータリー今年の
スローガン

「しなやかな変化で
奉仕を高めましょう」



ロータリー：
変化をもたらす

2017～2018年度

国際ロータリー会長 イアンH.S.ライズリー
2560地区ガバナー 新保 清久
高田ロータリー会長 橋詰 敏一
幹事 田中 正人

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員
箕輪 賢一 堀井 靖功 渡邊 隆 山田 守
小池 猛紀

第26回例会 ■ 1月26日(金)

No.26

会長挨拶 ● 橋詰 敏一



久々の大寒波といった感じで、多方面に色々と影響が出ておりますが、メンバーの皆様はいかがですか。

私は、今日午前長岡の往復予定を取り止めました。不用不急の外出は控えて下さいとしきりにニュースで言われる通りです。

スキーでの事故も多く聴かれるようになり、何事も無理は禁物です。ただ、全く予測できなかった本白根山の噴火は、自然の力と不確実さを思い知らされました。私共の焼山も噴気が上がらなく静かではありますが、少々気味が悪い感じがします。

さて、ロータリーは次年度の動きが出てまいります。次年度 川瀬ガバナーエレクトがRIの研修から戻られ、3月24日に行われるPESTの準備も終盤となります。合わせて、大谷ガバナーノミニの体制・日程も少しずつ決まってきました。後程紹介いただきます。

また、本年度の国際大会（トロント）の受付も終盤となり、当クラブは東山PGが先頭に立って、準備いただいております。まだ、間に合いますので、より多くのメンバーの参加をお願い致します。ちなみに来年は、ドイツ、そして大谷年度は何と「ハワイ」だそうです。

皆さんオン・ツー・ハワイに参加しましょう。今から準備下さい。

出席報告

出席率 98.31%

メイクアップ

橋詰敏一君（1/27 米山奨学委員長セミナー）

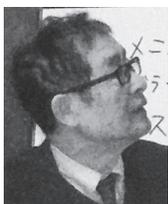
セレモニー

大谷ガバナー年度役員について

幹事報告

配布物：週報No.25・RI会長からのメッセージ

会員卓話 この上越から二人の若者が飛び立つ!



今日ここに二人の若者を紹介します。荒井颯太君と古野慧君です。二人とも関根学園の三年生だ。

荒井君は、190センチ98kgの大きな身体を生かしたダイナミックなプレーが魅力

渡邊 隆君

だ。上越市立富岡小学校時代に友人に誘われ、富岡レッドファイアーズで野球を始める。当時からボールを飛ばすことに非凡な才能を持っていて、4番で投手だった。上越市立城東中学校に行くようになって身長が飛躍的に伸び、3年次には多く

の高校から誘いを受ける。当時、同中学校出身者が主力を務めた関根学園の準優勝に感銘を受け、関根学園に入学を決めた。

高校入学後、すぐに4番に座ったが、春は県大会の出場もかかわらず早々に敗退。夏にはベスト8に進出するも自らのミスによる失点と再三のチャンスに無安打で途中交代。初めて野球の壁にぶつかった。なかなか思うように結果が出ず、2年夏には初めてベンチ外を経験する。これを転機に、野球に取り組む姿が変わった。同年秋には本校始まって以来、創部初の北信越大会出場に大きく貢献した。本塁打を二本放ち、打の関根学園4番として注目を集めた。

翌年春には二季連続の北信越大会出場が決まりそこでの活躍がスカウトの目に止まった。注目される中での夏の大会は満足できる結果は出せなかったが、大会初戦には本塁打を放つなど終始輝きを放った。

昨年10月29日、ドラフト会議にて読売ジャイアンツ育成8位指名され、小さい頃からの夢のプロ野球の世界へのとびらをひらいた。

もう一人の古野君は、次のように、語っている。小学1年の頃からスキーとBMXをやっていた。上越市はスキーをするにもBMXをするにも適した環境が整っており二つの競技に打ち込みたいと思い上越に引っ越してきた。また、当時、附属小学校に通っているBMXの友人がいたので中学受験をして附属中に入学した。小学1年の頃から兄と一緒にBMXに乗り、スキーもしてきたのでこの二つの競技を選んだ事は自然な流れだった。今はスキークロスという競技に一番力を注いでいるがこの競技はアルペンスキーとBMXを足して2で割ったような競技だから自分に向いていると思ったし、素直に楽しかったから続けてきた。2022年の北京五輪を目指している。

大学へ進学し、その後もクロスキューは続けた

い。高校生活を送る中で常に卒業後の進路について考えていた。スキークロスに打ち込める環境を探していて、就職してスキークロスが続けようかなとも考えていた。一方で、大学で勉強したいという思いも同時にあった。高3の春に中学のスキーの先輩で慶應に行っている方と話す機会があって慶應なら勉学もスポーツもどちらも高いレベルで行えるという事だったから受験しようと思った。

僕が受験したのはAO入試で、2,000字ほどの志望理由書とその他必要書類の作成が一次審査で、二次審査は教授の講義を聞いてそれにたいする意見をまとめるような論述試験とグループディスカッションがあった。

大学では東アジアの政治や文化について学びたいと思っている。というのも、中学生の頃から海外遠征に毎年行かせてもらっている中で多くの外国の友人が出来、韓国や中国の方とも非常に仲良くなった。彼らは凄く優しくて親日家の方が多かった。でも日本では日中韓の関係が悪いというような報道が度々されている。自分は実際に交流した事によって凄く仲良くなれたという実体験があったから将来的には日中韓の子ども達の交流の機会を作りたいなという思いもあった。自分がアスリートとして出来る貢献のかたちを模索したいなと思っている。



古野 慧 君

RI会長歓迎晩餐会に出席

東山 昕也 君

11月20・21日、RI財団地域セミナー・RI会長歓迎晩餐会（於：グランドニッコー東京）に第2560地区から新保ガバナー、山本パストガバナー、川瀬ガバナーエレクト他総勢7名にて出席してまいりました。RI会長、RI財団委員長と記念撮影していただきました。

